

第 1766 回例会報告

令和4年12月8日(木)曇り

会長告知

ふたご座流星群と

感染リスク10分の1県民運動

会長 萩田 均

本日の例会は社会奉仕委員会の担当により、諏訪大社権禰宜の桃井様をお招きし、卓話をいただきます。桃井様よろしくお祈りします。

サッカーワールドカップではびっくりしたり、悔しく思ったりの日々でした。寝不足が続きましたので、ある意味ほっとした結果でした。

今月はふたご座流星群が14日夜10時、計算上での最大期で流れます。1分に1個の割合で現れる予測で、1年の中でも割合活発な流星群で、火球の出現も起きやすい流星なので、ぜひご覧ください。月が東にあり、ふたご座を明るく隠してしまいますので、天頂から西側を見ていただければ、さほど長い時間、寒空の中見ていなくても出現すると思えます。

コロナ感染レベルが高い今、お弁当の食事による通常例会を開催しております。先週の例会の折においてお弁当は持ち帰る予定での開催でしたが、ここでとりたいとの意見も多く、本日は1テーブル3人がけを2人に変更してもらっております。本日の理事

会に諮って、このテーブル配置において黙食による食事をできるかの判断をしていきます。県においても感染リスク10分の1県民運動を提唱しています。できる限り通常の生活を取り戻すべく、感染に対し警戒をしていきます。

◇幹事報告◇

【報告事項】

12月のロータリーレートは、1ドル=138円 です

【受領文書】

1)クラウドファンディング「信州子どもカフェ応援プロジェクト」への協力について(長野県よりお願い)が来ました、回覧いたします

2)信州豊かな環境づくり県民会議会報「たまき」第102号が届きました。回覧いたします。

第1766回例会

諏訪大社と御柱祭

諏訪大社権禰宜(財務部長)

桃井 義弘様卓話

担当 社会奉仕委員会

本日は桃井様に卓話をいただきました。取材は田中社会奉仕委員長が担当していただきました。

こんにちは、本年の御柱祭、コロナ禍の中無事に終了

来週のプログラム 12月22日 第1768回例会 通常例会(クリスマス例会ではありません) 昼間会員のみ参加

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	35人	8人	9,000円	諏訪大社権禰宜 桃井義弘様 諏訪大社、御柱のお話よろしくお祈りします 田中久登 桃井さん 本日はよろしくお祈りします 萩田均 諏訪大社 桃井様 本日卓話楽しみにしています。よろしくお祈りします 宮坂英貴 ごめんなさい。先週無断欠席をしてしまいました。 蒲地整志
出席対象	34人	累計	343,000円	
出席者数	19人	目標額	60万円	
出席率	55.9%	達成率	57.2%	
前回修正	68.6%	ZOOM出席	1人	



2022-2023 年度 諏訪湖ロータリー活動方針

「考えよう、想像しようロータリー」

ウィークリーの原稿送付先は pr@suwakorc.net です

することができました、心より御礼申しあげます。

初めに諏訪大社の話をいたします。諏訪大社の分社は全国に1万社あるとされています、どのように分社化されるかと申しますと、御分霊ともうしまして、例えば、ろうそくの火を次々に新しいろうそくに火を移すようなもので、神様を分体することになります。またその逆も出来まして、複数の神様を1つにまとめる、これを合祀すると申します。



諏訪大社の呼び方は、「お諏訪さま」「諏訪大明神」とも申します、どれも間違いではありません。諏訪大社がお祀している神様は、「建御名方神(タケミナカタノカミ)・八坂刀売神(ヤサカトメノカミ)・八重事代主神(ヤエコトシロヌシノミコト)の御3神を祀った神社です。素盞鳴命(スナノウミコト)の直系の大国主命の子供の八重事代主神、建御名方神とその妃・八坂刀売神です。

諏訪さまは、諏訪湖周辺に4社に鎮座しております。本宮・前宮・秋宮・春宮(秋宮と春宮は合わせて一社)です。ももとは別々の神社です。どこも本社ではありません、同格です。雨・風・水・生命の根源を司る神様と言われております。時の権力者や天皇陛下・皇室よりも厚い信仰をいただいております。

諏訪神社の起源は古事記・日本書紀に出てくることから相当古い神社と言うことになります。伝記によりますと諏訪の神様は兄弟の争いに負けてたどり着いたといわれていますが、なぜか戦の神様と言われており、相当強い神様として信仰をいただいております。

日本には8万社の神社があるといわれていますがそのうち1万社が諏訪神社の分社(現在の調査によると宮司等が居る神社は1500程度でその他は祠だけのものも合わせた数)ですから相当大きな信仰を集めている神社と言えます。諏訪大社の宮司は位が高く明治時代は長野県知事よりも上だったと記録されています。また年間の催事は200種類くらいあります。お祭りの多い神社として知られております。ご神体は随一本殿有し、本宮は守屋山、硯石は盤座、下社は春宮が杉、秋宮は一位の木がご神体です。

数多いお祭りの中で最も有名なお祭りが式年造営御柱大祭です、御柱祭とは皆様がお使いの名称で神社は式年造営御柱大祭と言います。なんで何年かごとに祭りをやるかと言うと、神様の力を何年かごとに蘇らせるために行うということです。伊勢神宮では20年ごと諏訪大社では7年ごとです。いつ頃から御柱祭が行われ始めたか正

確には解っておりません。

1356年ころの記述に桓武天皇(737年)のころ始まったと記述してあるものもあります。御柱祭の年には地域からあまりものを外に出さない、また、結婚や葬式は控え、1本の御柱に千人から2千人が担当すると書いてあります。

なぜ4本の御柱を建てるかと言いますと、ももとは神社というのは、社殿はなかったようで自然崇拜(大木・巨石・滝など)で四角竹を建てて神職が祝詞をあげてますが、時代が進んできますと何かをご神体に見立ててこれを収納するために仏教の影響で社殿を作るようになったようです。4本の柱を立ててこの中を神聖な場所としてお祭りをしていたと考えています。

諏訪大社は4つの社殿がありますので合計16本の御柱を建てます、長さは1の柱が五十五尺(約17メートル)以下は五尺づつ短くして建てます。現在はもみの木を使っていますが過去には松・杉・檜などを使用しましたが、御柱祭の奉仕は室町時代には信濃国総奉仕でしたが明治以降は諏訪湖周辺の市町村の縮小奉仕になったようです。

御柱祭の昔は社殿そのものを全部建て替えたのですが現在では、奉仕の範囲の縮小に伴って造営の規模も縮小し、宝物殿の造営だけとなりました。御柱祭は木落などの華々しい行事が強調されますが、実際は3年前から仮見立て、本見立ての手順を追って行われます。上社は宮司により薙鎌が打たれます。下社は薙鎌行いません。次に伐採と行われます、下社は御柱祭の前年に伐採が行われます。御柱祭前年の年には、小谷村戸土中股(仲又)の小倉明神で、祭りの年に外部からの侵入を防ぐための「式年薙鎌(なぎがま)打ち神事」を行います、同神事は「国境見(くにさかいみ)神事」ともいわれ、7年目ごとに大社の神威が及ぶ範囲を確認し、信濃国の無事を祈るとされる。大社が薙鎌2体を携え、1体を県境にある大宮諏訪神社に奉納。もう1体を小倉明神と境の宮(同村戸土)の御神木に交互に打ち込む。7年ごとに交互の神社で行っています。



御柱祭の年には、伐採に始まり・山出し・御柱休め・里引き・御柱迎え・御柱固祭などを行います、氏子の参加する機会ごとに伝統ある木やりの掛け声を行います。宝物殿の前年解体・竣工祭・宝物殿遷座祭と続きます。

本日は短い時間ながら諏訪大社のお話をさせていただきました。

今後とも諏訪大社のご支援よろしく申し上げます。